



レンズ AF-S DXズームニッコールED18〜70ミリF3.5〜4.5G (IF) (換算52.5ミリ) モード 絞り優先AE (F8) +/- なし WB 晴天 感度 ISO100 機材 C-PLフィルター、三脚使用 撮影地 福島県北塩原村 10月下旬

紅葉の渓谷を ハイアングルから狙う

紅葉の中津川渓谷を橋の上から俯瞰して撮影した。真上からのアングルで狙うことで色付いた木々と渓谷美を造形的にとらえることができた。形の美しさを狙う場合、なるべくすっきりとした画面構成を心がけることが大切だ。また橋の欄干からの撮影ゆえ、クルマ等の通行による振動に注意してシャッターを切った。

秋の風景は晴天が映える

紅葉に美しく彩られた安の滝。上下二段の豪快な滝と紅葉のコンビネーションは青空のもとで見るとよく映える。正面からの光により虹が現れて彩りが一層増している。太陽高度が低くなるにつれて虹の発生位置は高くなる。どの位置に虹が現れるとベストなのかを考えてシャッターチャンスを待った。

レンズ AF-S DXズームニッコールED18〜70ミリF3.5〜4.5G (IF) (換算46.5ミリ) モード 絞り優先AE (F22、1/5秒) +/- なし WB 晴天 感度 ISO100 機材 C-PLフィルター、三脚使用 撮影地 秋田県北秋田市 10月下旬



レンズ MCペンタックスDA18-55ミリF3.5-5.6AL (換算52.5ミリ) モード 絞り優先AE (F11) +/- +1/2EV WB 晴天 感度 ISO200 機材 C-PLフィルター、三脚使用 撮影地 長野県軽井沢町 11月上旬

華やかな紅葉美を斜光で立体的に

カエデの紅葉が鮮やかな雲場池。サイド光に照らされると紅葉の木々は適度な陰影がついて立体感が感じられる。紅葉の色も鮮やかで輝きを放っている。木々が平面的に感じられ、紅葉の色も濁った印象であった順光のときは全く違った印象である。自分が撮りたい被写体をどんな光で狙うべきかをいつも考慮するようにしたい。

紅葉

Autumn Tint

9月中旬に北海道大雪山で紅葉は始まり、本州平野部では12月上旬頃が見頃となる。エリアを選ばなければ、かなり長い期間にわたって紅葉を楽しめるわけだ。

紅葉撮影の成功は秋の光を活かすことにかかっている。山や湖などを入れて風景的に狙う場合、斜光やサイド光を活かしたい。風景に立体感が生じ、紅葉の鮮やかさを引き出すことができる。PLフィルターを併用すれば、紅葉はもちろん青空や秋の雲の印象度も一段とアップする。また秋の低い光を活かし、逆光で狙うのも面白い。透過光により透明感のある色合いを引き出せるし、シルエットに浮かぶ樹形の美しさを切り取ってもよいだろう。

渓谷や森の撮影では晴天だと陰影が強過ぎてしまう。柔らかな光で落ち着いた色彩となる曇天や雨天の光で狙いたい。